日本経済論　　16．4．12

－はじめに：日本経済をみる目を養おう　　（安孫子）

1．講義の構造

日本経済の現状をバランスよく知るために、マクロ経済学の実証分析のほか、日本の各種制度についても、豊富なデータを用いながら理解を深めていきます。皆さんが社会に入って役に立つ日本経済の知識を身につけることを目標にしています。

講義の前半で実体経済について話した後、後半で金融と経済政策について説明します。

2．実態経済面の講義計画（前半部分）

①日本の経済成長率の推移　―　高度経済成長から時にはマイナスの低成長へ
②日本の景気循環と景気判断
③日本の景気指標
④日本の個人消費
⑤日本の家計貯蓄
⑥日本の住宅投資
⑦日本の企業投資
⑧日本の企業間競争と企業行動
⑨日本の産業構造の変化と地域間格差
⑩日本の貿易構造の変化 ― ｱｼﾞｱ諸国の経済発展の影響
⑪日本の財政 ― 財政赤字は富といえるのか？
⑫日本の公共投資
⑬日本の労働市場
⑭日本の物価動向
⑮日本のエネルギー
⑯規制緩和を求める動き
⑰デフレ経済　―　戦間期との比較

3．自己紹介

大阪大学の以下のホームページを参照　　http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~abiko/

―　いずれは近畿大学のサイトに移設する予定です

研究室は$\boxed{\text{B館５階の５A}}$、メールアドレスは　abiko@msa.kindai.ac.jp

オフィスアワーは$\boxed{\text{月曜日の３限目}}$

4．参考文献

三橋規宏ほか『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社、毎年度版

高月昭年著『金融の基本』（新版）日経文庫、

このほか、毎回配布するレジュメの中でテーマごとの参考文献を適宜紹介する予定です

5．現代日本経済に関する情報の集め方

新聞、テレビ、雑誌、インターネット等の有効活用　･･･　ただし鵜呑みにはしないこと

・日本経済新聞、ＷＢＳ（ﾃﾚﾋﾞ大阪）、週刊「東洋経済」、週刊「エコノミスト」などが有名

・インターネットでも、ニュースや経済時系列データを入手できる

・グラフを描くとデータを読みやすくなる　←　パソコンのスキルを向上させる

6.　経済学と制度の関係

$\boxed{\text{経済理論}}$：力学にたとえると、真空状態での動きを考える・・・鉄も羽も同じ速度で落下

⇔　$\boxed{\text{制度}}$：　　〃　　摩擦や空気抵抗のようなもの・・・落下速度が異なる

→　両者を知らないと、現実を理解することは困難

【参考文献】:「ハンティング・エピステーメー」31 頁の拙論

以上